

# 千葉県で発見された地衣類

原 田 浩

## はじめに

千葉県内に産する地衣類の目録を完成させることを目標に、年度によっては名称や位置づけが変化してはいるものの、調査研究事業として「房総の地衣類誌」を実施してきた。20周年誌ではこれに触れる機会が無かったので、ここでは開館以来の状況を概観するとともに、21年目以降を中心にまとめていきたい。

## 千葉県産地衣類のチェックリスト

目録作りの基本は、論文や報告書など出版物に掲載された文献情報に基づき、「千葉県産地衣類のチェックリスト」としてまとめていくことであった。これに平行して、県内でフロラ調査や採集した標本に基づく分類の研究を実施し、その成果として論文や報告書を発表していった。そして、これらを文献情報として、チェックリストに取りまとめていくということを繰り返した。

1994年に最初のチェックリストをまとめたとき131種を認めたが、このうち114種は1989年の開館以前からの記録がある種であることが分かった。1998年の第2版には201種、2002年の第3版では249種になり、2017年の第4版補遺では277種となり、その直後に重点研究の成果としてまとめた「東京大学千葉演習林の地衣類相」で22種を追加し299種となった。その後さらに若干の新種等を加え、300種を超えている。種数の増加分のほとんどは、当館による研究成果であった。

都道府県別では千葉県が、地衣類目録の完成度が最も高くなったと考えてよいだろう。

## 千葉県で見つかった新種

千葉県に産する地衣類の目録完成を目指して調査研究を進めた結果、県内から30種ほどの新種を発見し、記載した。このうち2009年以降では、以下の12種がこれにあたる。

*Cresponea japonica* A. Sakata & H. Harada ヒメカシゴケ、*Cresporhaphis chibaensis* H. Harada ニセマルゴケ、*Graphidastra japonica* A. Sakata & H. Harada アシカゴケ、*Leptogium bosoense* H. Harada ヒメアオキノリ、*L. chibaense* H. Harada ノミノアオキノリ、*L. kiyosumiense* H. Harada キヨスミカワキノリ、*Mazosia japonica* A. Sakata & H. Harada ミキノフシアナゴケ、*Megalotremis chibaensis* H. Harada オオゴマゴケ、*Pseudocalopadia chibaensis* H. Harada & A. Sakata プ

セウドカロパディア チバエンシス、*Thelidium chibaense* H. Harada チバノマルミゴケ、*Verrucaria capitulata* H. Harada ボウズサワイボゴケ、*V. craterigera* H. Harada コナアナイボゴケ、2018年12月末にはもう1種追加される予定である。

ここに挙げた多くの新種は房総丘陵で見つかったが、*Cresporhaphis chibaensis* ニセマルゴケは印西市など、*Graphidastra japonica* アシカゴケは銚子市で採集されたというような例外もある。また、既に収集した標本の中にも新種の可能性があるものも含まれているが、やはり産地は房総丘陵である。

これらの新種のうち、*Leptogium kiyosumiense* キヨスミカワキノリは直径10cm程に達する比較的大形の葉状地衣だが、同属の*L. bosoense* ヒメアオキノリと*L. chibaense* ノミノアオキノリは微小な種である。他の全種は基物表面に広がる痂状地衣であり、更に目立たない小型地衣である。

因みに県外（国外を含む）からの新種も60種ほど記載しており、県内産の新種同様、そのタイプ標本は第3収蔵庫内で保管している。

## 市民の研究参加

上に挙げた新種の中には学名の著者名にH. Haradaだけでなく、A. Sakata が付いているものが2種あった。これは坂田歩美さんのことで、2008年から当館の市民研究員として地衣類、特に日本産のリトマスゴケ科の研究を始め、間もなく共同研究員になり、2014年に秋田県立大学から博士の学位を授与されている。彼女は平成30年度(2018年)から当館の職員になった。また、市民研究員の東あずささんは、海岸の岩上に生えるスミイボゴケ属を長年にわたり研究され、ついに2017年に*Buellia yoshimurae* Higashi et al. ハマスミイボゴケを新種記載された。

地衣類を学習できる機会が県内はもとより国内ではほとんどない。そこで当館では、初心者向けの観察会や入門講座、コケサークル(地衣類)、さらに勉強したい方には年10回程度開講する講座「地衣類の分類」を実施し続けるとともに、市民研究員制度で多くの市民研究員を受け入れ、長年にわたり様々な学習機会を提供してきた。坂田さんや東さんの新種は、この顕著な成果の例である。

(植物学研究科)